

日本性科学会 ニュース

第38巻 第1号

平成31年（2019年）3月

発行人：大川 玲子 印刷所：(株) 絢文社

第48回セックス・カウンセリング研修会

期 日：2019年6月2日（日）

会 場：東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂（東京）

受 講 料：一般12,000円 学会会員10,000円 学生3,000円

* 昼休みに2019年度日本性科学会総会を開催致します。

メインテーマ：がん患者のセクシュアリティ支援

第39回日本性科学会学術集会

期 日：2019年10月6日（日）

会 場：鹿児島市医師会館（鹿児島市加治屋町3-10）

学 会 長：玉昌会高田病院泌尿器科科長 内田 洋介

テ ー マ：新時代の性科学を模索する～明治維新ゆかりの地にて～

シンポジウム1 HPV ワクチンのこれからを考える

高嶋 博（鹿児島大学神経内科・老年病学）

高橋 幸子（埼玉医科大学産婦人科）

シンポジウム2 歴史の中の LGBT

三橋 順子（明治大学文学部）

東川隆太郎（まちづくり地域フォーラム・鹿児島探検の会）

シンポジウム3 セックスワーカーの権利と安全（仮題）

東 優子（大阪府立大学）

要友 紀子（SWASH）

畑野とまと（トランスジェンダーカフェ）

特別講演 宗教と性（仮題）

古川 潤哉（浄土真宗本願寺派）

ユースセッション これからの性科学を語る（仮題）

学会事務局：医療法人玉昌会 高田病院泌尿器科

〒892-0824 鹿児島市堀江町5-1

TEL 099-226-4325 FAX 099-222-8386 E-mail: jsss39-office@umin.ac.jp

大会ホームページ <http://jsss39.umin.jp/>

* 演題募集期間（予定）2019年5月7日～7月5日

* 10月5・6日は鹿児島市（桜島）で大規模な音楽フェスが開催されます。

宿泊の予約はお早めにお済ませください。

期日：2019年10月5日（土）

GID 学会エキスパート研修会 / 第20回日本性科学連合セミナー / 合同懇親会

夜の市民公開講座 Tenga ナイトスペシャル

福元和彦（福元クリニック） 今井 伸（聖隷浜松病院泌尿器科）

内田洋介（玉昌会高田病院泌尿器科）

ゲスト 小室友里、加藤 鷹

Vol. 38

JG.

1

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

配偶者や子のいるトランスジェンダーとの心理療法

お茶の水女子大学生生活科学部心理学科

石 丸 径一郎

2018年11月29日の日本性科学会症例研究会では、妻子のいるトランス女性のケースについて検討した。本稿では、配偶者や子のいるトランスジェンダーについて、既存の研究を踏まえて論じたい。

3名のアメリカの家族療法家たちが、トランスジェンダーを包摂する家族療法の枠組みについてまとめている¹⁾。これは、個人のレベルから、周囲の人々との関係、社会との関係、時間的な文脈を考慮に入れた包括的な枠組みである。この研究の中で、パートナー関係、子育て、臨床への示唆について述べられている部分を下記にまとめる。

Romantic Partnerships (恋愛にもとづくパートナー関係) :

カップルになった後に、トランスジェンダーであるとカミングアウトしたり発覚したりした場合には、カップル関係が破綻すると一般に思われているかもしれないが、誤りである。またパートナーのいるトランスジェンダーたちの半数以上が、性別移行の前後で、同じパートナーと関係を継続しており、その関係から得るサポートによって抑うつが緩和されているという研究もある。

Child-rearing (子育て) :

2016年に発表されたアメリカの調査では、18%のトランスジェンダーが親であるとされる。しかし、全米の成人のうち親である割合は34%とあり開きがあり、トランスジェンダーが親になる障壁の存在が浮かび上がる。アメリカにおけるこのような障壁として、差別的な法律や政策、治療にかかる費用、養子縁組にかかわる不公平が挙げられる。

Implications for Inclusive Clinical Practice (包摂的な臨床実践への示唆) :

クライアントにとって家族は常にサポータティブであるとは限らない。セラピストまで同じように害をなさないようにしたい。セラピスト自身が、異性愛規範的であったり本質主義的であったりしないように、「家族」のイメージや前提を再考しておくことが勧められる。また、クライアントが、他のトランスジェンダー当事者や、トランスジェンダー・コミュニティと繋がれるように促すことも重要である。

トランスジェンダーを含む家族の心理療法は、親・養育者、きょうだい、パートナー、子などさまざまな登場人物との関係を把握する必要があり、複雑である。上記研究でも、包括的に論じられているとは言えず、主に若年期から性別移行を始めた当事者たちについての記述が主体であった。一方で、トランス男性と比較してトランス女性では性別移行が平均的に遅い年代になることが知られている。異性愛男性として形成した家族、つまり妻や子どもたちとの関係を、離別や再構築を含めどのように扱っていくか、今後の大きな課題であると考えられる。

文献 :

- 1) Edwards L, Goodwin A, Neumann M. An Ecological Framework for Transgender Inclusive Family Therapy. *Contemp Fam Ther*. September 2018. doi:10.1007/s10591-018-9480-z.

追悼 亀谷 謙 先生

あべメンタルクリニック 阿 部 輝 夫

亀谷先生は異色の精神科医でした。精神科医になる前の約40年間で、電子顕微鏡を駆使した基礎医学研究や、解剖学、そして産婦人科医として活躍され、1993年に精神科に転向され、2003年に亀谷メンタルクリニックを開設されました。初めて出会った頃の先生は産婦人科医でした。海外の学会には毎回出席され、奥様も同伴されていました。移動中の飛行機やバスの中では、いつもメモを手放さず、考えていらっしゃるお姿を思い出します。

1992年に亀谷先生が、第12回日本性科学会を四日市で開かれたのは、私が浦安で本学会を仰せ付かった翌年でしたので、所々覚えています。亀谷先生はライフワークであった「老化と性」について会長講演をなさいました。会場が伊勢神宮の近くであったせいか、神職の方からの特別講演もあり、懇親会はその神社に移動しておいしい和食が振る舞われたように覚えています。

精神科を開業されてからは、時々お電話をいただき、GIDの情報交換をさせていただいておりました。2008年には東海地域で初のGIDフォーラムを開催されるとともに、夫婦間の性のカウンセリングに力を入れてられました。本当にお疲れ様でした。先生のご冥福をお祈りいたします。

すぎやまレディスクリニック 杉 山 正 子

亀谷先生との出会いは、2002年、開業して間もない私が初めてGIDの患者さんの来院を受け、治療について当時名古屋の絃仁病院に勤務しておられた先生にご相談した時でした。どのようにして亀谷先生にたどり着いたのか思い出せませんが、当時GIDについて相談できる先生は名古屋では他におられませんでした。何回かの手紙のやり取りの後、GID研究会と日本性科学会の学術集会のプログラムが送られて来て、引き続き入会申込書が届きました。先生は病院勤務ではご自分の目指す医療ができないと、名古屋駅の近くで亀谷メンタルクリニックを開業され、私は多くのGIDの患者さんを一緒に診させていただきました。GIDの診断のために亀谷先生が要求される検査は多岐にわたっていましたが、ご自分もまた前立腺癌のホルモン療法について被検者となって様々な検査を試みておられ、私のクリニックで採血して研究機関に依頼されていました。亀谷先生と連名で学会発表や論文作成もしましたが、先生の望まれるレベルには到達できず、満足してはいただけませんでした。今も私のクリニックに通院している当時の患者さんたちは「亀谷先生のおかげで今の僕たちがいます。機会があればお墓参りをしてお礼が言いたいです。」とおっしゃっています。心よりご冥福をお祈りします。

聖隷浜松病院泌尿器科 今 井 伸

亀谷先生に最初にお会いしたのは、おそらく2000年代前半の性機能学会だったと思います。大変失礼ながら、「的外れな質問を連発する老医師」というのが第一印象でした。「年をとってもああはなりたくはない」と思いつつ、質問したくてもなかなか勇気が出ない自分と違い、素朴な疑問を素直に追求していらっしゃる姿勢を少しうらやましくも感じていました。

2005年に浜松で勤務するようになって程なく、亀谷先生のライフワークである性治療を同じ浜松地区で行っている若手医師として認識していただき、患者さんを紹介していただけるようになりました。このときは、「性科学会の重鎮から認めていただいた」と手のひら返しで崇拜し、都合よく喜んでいました。当時は、自宅にしばしば直電があり、幼かったわが子たちの間で有名な人となられたのも懐かしい思い出です。その後、亀谷先生が性科学会の理事を退任される際、代わりに若輩者の私を幹事に推薦してくださり、私の医師人生は大きく変わりました。

思い返せば、亀谷先生はいつもここぞという時に適切なアドバイスや後押しをくださり、そのおかげで私は成長してこれたと心から感謝しています。後半の数年は、亀谷先生の主治医としていろいろなお話ができ、年齢をはるかに超えた行動力も目の当たりにしてきました。晩年はクリニックを閉院されましたが、週のうち3～4日を静岡県東部の老健施設に泊まり込みで働いていらっしゃいました。最後まで自分の信念を貫いて、燃え続けられた医師人生ではなかったかと思います。ご冥福をお祈りします。

新幹事 ご挨拶



公立陶生病院泌尿器科
奥村 敬子

この度、新幹事を拝命しました、愛知県の公立陶生病院で泌尿器科医をしております奥村敬子です。岐阜県出身で、2003年に藤田保健衛生大学（現：藤田医科大学）を卒業しました。実は、大学入学時は精神科希望でした。しかし、大学1年目の病院実習で精神科を回り、患者さんの嘘が見抜けない（疾患のため嘘をついてしまう）、外来診察中の親子のどちらが患者かわからない、感情移入しやすい、という精神科には不向きな自分を知り、「これから大学6年間どうしよう」と路頭に迷った気分になったことを覚えています。

その後、名古屋第一赤十字病院での研修中に加藤久美子先生という女性泌尿器科医のパイオニアに出会い、「泌尿器科は男性だけの科ではなく女性医師として役に立てる、最初から最後まで患者さんを診ることが出来、手術も出来る」という理由で泌尿器科に入ることを決めました。名大病院勤務後、2009年豊橋の成田記念病院に異動後、泌尿器科で女性性機能治療をされている関口由紀先生から「性機能の分野が嫌では無ければやってみたら？」とアドバイスを受け、小谷俊一先生の外来などで性機能の勉強を始めました。関口先生とは数年に一度一緒に ISSWSH (International

Society for the Study of Women's Sexual Health) に参加させていただき、海外の新しい女性性機能の知識を得ています。

性科学会へのきっかけは、学会の幹事である杉山正子先生からお手紙をいただき、性科学会学術集會に参加したことです。泌尿器科としての性機能は、男性性機能メインで、性機能としては一面に過ぎないのかもしれない、と性科学会にカオスのようなものを感じました。

その後、2011年『花電車』の真実～MRI・CT・筋電図を用いて検討した骨盤底筋群の動き～を性機能分野での最初の発表とし、2013年に第3回日本性機能学会東部総会で「ガラパゴス FSFI ～インターネットによる1000人調査」で総会賞をいただいたことで、性機能分野を継続していく意欲につながったと思います。

また、2012年にセックスカウンセラー、2015年に性機能専門医を取得しております。臨床では、EDや女性性機能障害を細々と診ています。性機能を学び始め、まだ10年未満であり、当学会の幹事の先生方と比べますと、圧倒的に経験値が低いように感じますが、「継続は力なり」と考え、頑張っています。

現在、41歳育児中で、近日復職予定です。産休中に、雑誌「腎臓内科・泌尿器科Vol.8 No.3」の「特集：性機能障害と泌尿器科疾患」に女性性機能障害を執筆しましたので、自己紹介文の追加として、ご興味のある方は読んでいただけますと幸いです。

これからも学会で多くを学ばせていただき、性に悩む患者さんに少しでも還元していけるよう努めていきます。今後とも宜しくお願いします。

第24回性の健康世界学会（24th WAS）のお知らせ

本年の WAS 開催地はメキシコ World trade center, Mexico City です。

期日：10月12～15日 大会会長：Osamar Matsui 大会テーマ：Building Bridges in Sexual Health & Rights.

登録費の最も安い早期登録は4月30日。抄録締切の3月15日は4月1日に延期されています。

詳細は <https://www.was2019.org> をご覧ください。追って学会ツアーのお知らせをいたします。

日本性科学会学術集會の翌週ですが、奮ってご参加ください（文責：大川）。

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト資格認定委員会報告

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部 輝夫

本年も日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2019年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示は、6月発行の日本性科学会ニュースに掲載されます。

尚、更新該当者氏名（登録順）は以下の通りです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は御準備を御願い申し上げます。また、同時に2019年度新規資格認定に関する告示もニュース6月号で行います。

資格更新該当者

セックス・カウンセラー	島 典子	花村 温子		
セックス・セラピスト	永井 敦	岩佐 厚	石丸 徑一郎	花村 温子
	丹羽 咲江	内田 洋介	菅沼 信彦	

会費納入のお願い

4月より新しい年度（2019年4月1日より2020年3月31日）にはなりますので、2019年度年会費（一般12,000円 役員15,000円 学生5,000円）の御納入を、宜しくお願い申し上げます。手数料が無料となります学会の郵便振替用紙を同封致しますので、御利用下さい。

尚、学生の方は学生証のコピーを事務局にお送り下さい。学生会員と認められた場合は、改めて学生会員用の郵便振替用紙を送付致しますので、その用紙でお振込みをお願い申し上げます。